



通信

HP 学校だより
R6. 4. 17
NO. 4
文責 伊藤美佳



自から考え、やり抜く楽しさ

新年度がスタートして、2週間となりました。子どもたちは、少しずつ新しい環境に慣れ、業間や昼放課には元気な声が校内や運動場に満ち溢れています。

今年度は、豊坂小学校において研究発表会（10月23日）が行われます。子どもたちとともに作り上げる学びの様子を、他校、他市町からご来校いただく多くの先生方にご参観いただければと考えています。

P T A総会でもお話しましたが、教育目標として掲げているのは「自ら考えて行動しよりよい生き方を追求する たくましい子どもの育成」です。小さな社会である学校生活では、さまざまな場面で子どもたちに「自ら考えて行動」する場が与えられます。授業はもちろんですが、縦割り活動や委員会などもその一助であると考えています。

実は、「トヨサカ通信」の裏にある問題も、その一環で実施しています。1年生に分かりやすくするために、簡単なものから出していますが、まだ文字を習っていないので、ルールを読み取りにはお家の人の力を借りることになります。しかし、ルールが分かったら、そこからは子どもたちの力を引き出せるチャンスです。ヒントを与えたり、お家の人がやってしまったりせず、最後まで子ども自身の力でやり抜かせてください。子ども自身が「できた」喜びを味わい、やり抜く力が培われていきます。「できた！」と報告に来てくれる子の多くが、何回も消してやり直しながらゴールに行きついたと分かる回答用紙を持ってきます。「最後まで考えたんだね」「あきらめずにゴールに行けたね」「何回もやり直して、すごいね」などと声をかけると、うれしそうな笑顔を見せてくれます。この笑顔を見られることはとても幸せです。見守る支援の大切さを実感できます。

子どもたちは、「自分でやれる」ことが自信となります。すぐに大人に助けを求める子もいますが、「よりよい生き方を追求するたくましい子ども」に育てていくためには、すぐには手を貸さず、子ども自身が「できた」を味わえるように支援できたらと考えます。勉強だけでなく、お手伝いを通して「できた！」も大切です。生き生きとした子どもの目の輝きが、どんどん増えていくことをめざして、家庭、地域、学校が連携していきたいと考えます。よろしく願いいたします。

ちょっといい話

- 登校前、集合場所で遊んでいた子が、荷物をそこに置き忘れてしまいました。集合場所にいた方が、その子に置き忘れたことを伝えてくださり、その上、学校まで来てその旨を連絡してくださいました。他の班の子が気づいて持ってきてくれたのですが、自分の子どもではなくても、通学班やその地区の子ども全体を気にかけてくださることに感動しました。
- 5年生の理科の学習で「メダカ」を扱います。6年生が昨年もらって育て、増やしたメダカを持ってきてくれました。5年生の子たちの助けとなります。他学年のことを思いやるその気持ちがうれしかったです。